

[通常機体] フ G 「ガンダム SEED」

ブリッツガンダム

機体名	ブリッツ	画像
型式番号	GAT-X207	
英語名	BRITZ GUNDAM	
種別	電撃侵攻用試作 MS	
所属	連合軍ザフト軍	
パイロット	ニコル・アマルフィ	
装甲材質		
装備	攻盾システム<トリケロス> ・3 連装超高速運動体貫徹弾<ランサーダート> ・50 ミリ高エネルギービームライフル ・ビームサーベル ピアサーロック<グレイプニール> ミラージュコロイド	
作品名	機動戦士ガンダム SEED	
参考書籍	MIA データシート 0026 データコレクション ガンダム SEED 上巻	

内容

地球連合軍の電撃侵攻用 MS でザフトが強奪した G の一機。

X200 系のフレームを持つ機体で、これは X100 系のフレームの発展型となっている。

本機は敵地奥深くまで侵攻し、隠密行動を行うことを前提として開発された機体の為、装備もそれに対応したものを搭載している。

本機の最大の特徴は、微粒子ガスにより機体を包み、レーダーや肉眼で見えなくするシステムである「ミラージュコロイド」を装備している点である。

これは機体の出す赤外線すら通さず、完全なステルス性を発揮できるが、使用時間に限りがあり、使用中は PS 装甲も使用できないという欠点がある。

また G の標準装備である「イーグルシュテルン」に代表されるような内蔵火器を一つも装備していないのは「ミラージュコロイド」を装備しているからである。

ザラ隊として中立国オーブからアラスカ基地へ向け出発するアークエンジェルを襲撃。

襲撃した際にブリッツは右腕を切断され、失っている。

そのときフェイズシフトダウンし窮地に陥ったイージスガンダムを助けるためにストライクガンダムへ特攻をかけ、胸部部に「シュベルトゲベール」を受け爆発炎上した。

■ MIA

CE71 年 1 月に、誰も成しえなかったユーラシア連邦の無敵の要塞「アルテミス」を単機で陥落させたのが「ブリッツ」である。

元々、この機体は地球連合と中立のオーブが開発した初期の GAT-X シリーズ機の 1 つでその名の通り「雷撃侵攻戦」に特化した機体であった。

中でも特殊な X200 系フレームを組み込んで作られただけあって、フェイズシフト装甲の他にミ

ラージュコロイドと呼ばれるステルスシステムが兼ね備えられていた。
さらにビームライフル、ビームサーベル、ランサーダートを一纏めにした攻盾システムのトリケロスを始め、ワイヤー付のクローであるグレイブニールなど、実験的な武装が多い。
ヘリオポリス崩壊事件の際にザフトによって奪取されてからは、地球連合第8艦隊を全滅させるのに一役買い、オーブ近海の戦いまでアークエンジェルとストライクを苦しめ続けたのであった。

■上巻

特殊兵器を搭載できるよう設計された X200 系フレームを持つ連合の GAT-X シリーズ。
ミラージュコロイドと呼ばれる特殊ガスで自機を包むことによって、レーダーはおろか目視をも不可能にすることができるシステムを搭載している。
これを使用して単機での進攻や敵陣への潜入、隠密接敵などを行う。
右腕にウェポンラックとシールドを兼ねる攻盾システム「トリケロス」、左腕にピアサーロック「グレイブニール」を装備している。

備考

■ミラージュコロイド

ただし、フェイズシフトした状態では使用不可能という弱点も持つ。
アルテミスの傘
また地上でも使用可能で、片腕を失ったブリッツがキラのストライクに特攻する際にランサーダートを抱えてミラージュコロイドで接近していた。
連合軍側ではその後、ミラージュコロイドを使用する機体は現れなかったが、この技術はザフト側では注目され、特殊ステルス装備のジンなどを経た後、ジェネシスにも用いられた。

■ディアクティブモード

■失った右腕

切断された右腕は後に回収され、既に右腕を失っているガンダムアストレイゴールドフレームに使用されている。

スペック

項目	内容
全高	18.63 m
頭頂高	
全長	
重量	73.5 t
全備重量	
ジェネレーター出力	
スラスター推力	
センサ有効半径	